

会 社 名 株式会社イーエムシステムズ
 代 表 者 名 代表取締役社長 國光 浩三
 (コード番号 4820 東証 第二部)
 問 合 せ 先 執行役員管理本部長 中尾 光宏
 (TEL 06-6397-1888)

業績予想 (連結・単体) の修正について

最近の業績動向を踏まえ、平成 19 年 5 月 15 日に公表した平成 20 年 3 月期 (平成 19 年 4 月 1 日 ~ 平成 20 年 3 月 31 日) の中間期および通期業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 20 年 3 月期 中間連結業績予想数値の修正 (平成 19 年 4 月 1 日 ~ 平成 19 年 9 月 30 日)

(単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	6,435	880	883	486
今回修正予想 (B)	5,613	620	639	369
増減額 (B - A)	822	259	244	116
増減率 (%)	12.8%	29.5%	27.7%	24.0%
(ご参考) 前期 (平成 19 年 3 月期中間) 実績	5,545	819	823	455

2. 平成 20 年 3 月期 中間単体業績予想数値の修正 (平成 19 年 4 月 1 日 ~ 平成 19 年 9 月 30 日)

(単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	5,104	848	857	471
今回修正予想 (B)	4,169	542	562	318
増減額 (B - A)	935	306	295	152
増減率 (%)	18.3%	36.1%	34.4%	32.4%
(ご参考) 前期 (平成 19 年 3 月期中間) 実績	4,277	811	816	451

3. 平成 20 年 3 月期 通期連結業績予想数値の修正 (平成 19 年 4 月 1 日 ~ 平成 20 年 3 月 31 日)

(単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	13,867	2,041	2,049	1,118
今回修正予想 (B)	12,864	1,957	1,980	1,090
増減額 (B - A)	1,003	83	68	28
増減率 (%)	7.2%	4.1%	3.4%	2.5%
(ご参考) 前期 (平成 19 年 3 月期) 実績	11,395	1,740	1,763	995

4. 平成 20 年 3 月期 通期単体業績予想数値の修正 (平成 19 年 4 月 1 日 ~ 平成 20 年 3 月 31 日)

(単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	11,112	1,959	1,976	1,087
今回修正予想 (B)	10,014	1,821	1,850	1,021
増減額 (B - A)	1,097	137	126	65
増減率 (%)	9.9%	7.0%	6.4%	6.0%
(ご参考) 前期 (平成 19 年 3 月期) 実績	8,742	1,648	1,678	947

5. 修正理由

当中間期の調剤薬局向けシステム事業につきましては、医療制度改革の影響により調剤薬局が買い控え傾向にあり、依然として厳しい状況が推移しております。当社としましては、前期第4四半期より施策として「Recepty」への自社リプレースを推し進めておりますが、ユーザーが製品の買い替えよりもソフト保守契約をする傾向が強く見られ、当第1四半期には自社リプレースの販売件数鈍化が見られました。当第2四半期から、自社ユーザー向けにリプレースキャンペーンを実施し自社リプレースを促進した結果、9月には単月で過去最高を超える販売金額及び件数を獲得しました。しかしながら、度重なる医療制度改革や平成20年4月施行予定の医療制度改革が調剤薬局の新規開局や買い控えに影響を及ぼしており、他社リプレースは堅調に推移いたしましたが、第1四半期の落ち込みを回復するには至りませんでした。

システム納品後のインストラクションにつきましては、オペレーション教室を最大限に活用し効率化を図っておりますが、業務効率化のために進めておりましたシステムの出荷・納品センター集中化プロジェクト(ESプロジェクト)が協力会社の技術習得の遅れにより、当初予定しておりました導入スケジュールが大幅に遅れる結果となりました。当下期からは新体制で再構築を目指し、準備を進めております。

ネットワークサービス事業につきましては、平成21年4月より調剤薬局に対して段階的に義務化されるレセプトの全面オンライン化に向けて、新製品「レセプトオンライン請求スターターキット」の発売を7月に開始し、オンライン化に向けて推進を図っておりますが、一方で厚生労働省発行の「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン第2版」と「レセプトオンライン請求に係るセキュリティに関するガイドライン」との整合をとるための動きが当社の予測より遅れが生じており、システム販売を加速させるまでには至っていないのが現状であります。なお、このガイドラインの整合性については、下半期には実現されると見込んでおります。

一方、患者向け情報サービス「お薬できましたお知らせサービス」を10月より開始するとともに、情報ビジネスの具現化として、病診薬連携のための共同研究への新たな参画や、国立感染症研究所と「処方情報に基づく症候群サーベイランスシステム」の構築に関する共同研究も開始しており、今後も当社のデータセンターを活用した病診薬連携や、データセンターに蓄積された院外処方における処方情報を活用した地域医療への貢献をより一層推進してまいります。あわせてより一層の充実を図るため、当社は独自のセキュアなネットワークサービスやデータセンターを活用した完全オンライン化を図り、ビジネスモデルの改革を進めてまいります。

調剤薬局事業につきましては、医療制度改革の影響はあるものの、医療サービスの向上に努めており堅調に推移しております。4月から梅田北店に新たにオープンしました鍼灸・整骨店舗(店名:祥明)は、調剤薬局・漢方薬局・鍼灸整骨院が相乗効果をもたらす順調な立ち上がりを見せております。

平成17年2月に取得した土地の有効活用につきましては、上物建設工事が順調に進んでおり平成20年3月にビル竣工を迎える予定です。

以上の結果、平成20年3月期の中間業績予想につきましては、平成19年5月15日に開示しました中間業績予想を下回る見込みとなりました。単体決算の中間業績予想の修正に伴い、連結決算の中間業績予想も修正いたします。また、通期の業績予想につきましては、下半期も引き続き業績の向上と効率化を追及し安定した経営基盤を確保するとともに、当社グループ事業を積極的に推進して参りますが、中間業績予想の修正とともに上記の通り修正いたします。

なお、中間業績予想の前期との比較において利益が大幅に減少しております要因は販売管理費の増加であり、主なものは、将来を見据えた研究開発に関連する費用の増加と、人員の拡充に伴うものです。

(注)本資料における業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断したものであります。

予想にはさまざまな不確定要素が内在しており、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合があります。

以上